

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 2 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2 1 7 3 3 0 0 4 3		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス宮川		
所在地	岐阜県飛騨市宮川町巢之内 6 4 (電話) 0 5 7 7 - 6 3 - 2 5 8 8		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年11月4日

【情報提供票より】 (平成 20 年 9 月 8 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	5 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	7,500~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 8 日 現在)

利用者人数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
要介護 1	1 名	要介護 2	1 名
要介護 3	1 名	要介護 4	2 名
要介護 5	0 名	要支援 2	1 名
年齢	平均 85 歳	最低 81 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	飛騨市民病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

廃校になった校舎を改造したホームの前には、樹齢約80年の桜の古木や水捌けのよい山砂を敷いたゲートボール場がある。周りの畑では野菜・花・桜の苗木を育て、プランターには黄金色の稲穂が垂れ、ベランダで栃の実を干し、カモシカ・リス・ムジナ等の来訪もある。冬の寒さや雪は厳しいが、職員の手で雪囲いや除雪作業が行われ、広々とした階段・室内は暖かく、エレベーターもある。中学生の体験学習や子ども会・老人会との交流が行われ、利用者も職員も地域のなじみの人達であり、温かい支援が行われ、地元の住民にとっての働き場所としても欠かせないものになっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の課題であった外部研修については、積極的な会社の支援があるものの、家庭をもつ職員には地理的に参加しづらく、ビデオ学習がそれを補完するものとして予定されている。避難訓練については消防署立会いで年に2回行われており、改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が自己評価項目を記入し、介護計画作成担当者が項目ごとに意見を整理して集計し、それをもとに会議で討議して集約したものを記入した。自己評価を業務改善や研修につなげようとする地道な努力をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の状況、ヒヤリハット事例、行事報告や外部評価制度の事などを詳細にまとめた報告書が作られ、それをもとに市担当課係長、民生委員、家族等の出席を得て、隔月に開催されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の状況については来訪時や電話、書面等で報告している。毎月「ホームたより」が同法人経営3ホームで一緒に作られ、送付されている。意見投書箱、苦情窓口案内ポスター、家族会の設立や運営推進会議の家族出席等により意見表出の勧奨をしている。出された意見には、管理者も真摯に受けとめ、その対応についての規定も作られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 人家は山間に点在し、隣とも遠く離れているような地域であり、日常的な出入りのある付き合いは難しいが、女性会・老人会・子ども会等との交流、運動会等の行事への参加や一緒に花火大会をする等の交流がある。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念「どんなに老いてもやりたいこと、叶えたいことがある。それをわがままととらえず、家族となりサポートする」が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者と職員は、地域で愛され親しまれてきた校舎で老人会や園児・児童・生徒等と交流しながら、理念を実践する温かい生活を送っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	人家が隣まで遠く点在するような地域であり日常的な付き合いは難しいが、女性会・老人会・子ども会等との交流、運動会等の行事参加と一緒に花火大会をする等の交流がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価項目を記入し、介護計画作成担当者が項目ごとに意見を整理して集計し、それをもとに会議で討議して集約したものを記入した。P(計画)D(実践)C(見直し)を合言葉にして定着に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者の状況、ヒヤリハット事例、行事報告や外部評価制度の事などを詳細に報告書にまとめ、それをもとに市係長、民生委員、家族等の出席を得て、隔月に開催されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課の主催する「サービス事業者等連絡会議」や「介護計画作成担当者会議」等に参加し、さらに深みのある交流にする様努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状況については来訪時や電話、書面等で家族等に報告している。毎月「ホームたより」が同法人経営3ホームで一緒に作られ、送付されている。金銭出納の明細も報告している。契約書や重要事項説明書の見直しを作業中である。	○	見直した書類等は、すみやかに家族等に報告・説明されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見投書箱、苦情窓口案内ポスター、家族会の設立や運営推進会議の家族出席等の意見表出の勧奨をしている。出された意見には、管理者も真摯に受けとめ、その対応についての規定も作られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は地元採用であり、利用者と既に面識があり、何らかのつながりがあり、離職は少なく、これが何よりのダメージ防止策になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は地元の未経験者が多く、研修受講に対する会社の支援は手厚いが、地理的な制約もあり、その利用は充分ではない。しかし、資格取得意欲は高く、また、通常の勤務態様は家庭を持つ職員には充分配慮されたものになっている。同法人経営3ホームで、ビデオ学習をする事が予定されている。	○	地元の職員は、地域性が理解しやすいといった利点もあるが、未経験者を育てる必要があり、そのための取り組みに期待したい。外部研修は立地条件から参加しづらい環境にあり、それをカバーするためにも、内部研修の充実を図られたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所で行われる運営推進会議に招かれて出席したり、市の「サービス事業者等連絡会議」や「介護計画作成担当者会議」などに出席している。同法人経営3ホームで合同運営推進会議等をもつなど、サービスの向上に研鑽している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族による施設見学、3～5泊の体験入居を経て正式な入居となる。その間、職員は、利用者に馴染んでもらえるよう、より一層の配慮をもって接している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	緑濃い自然の中での生活である。畑で花や野菜を育てる事、くるみを拾って、干し、料理に使う事、漬物をつける事など昔からのことを職員も教えてもらいながら共に生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の心の中にある希望や願いを聞きだそうとする努力が行われている。言葉の少ない人は表情や動作から、あるいは、面会時などに家族の思いを把握するようにも努めている。	○	本人にとって重要な情報は、利用者概要書(フェイスシート)などを作り職員間の継続的な活用が望まれる。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を主体として、主治医のアドバイスを受け、職員間で話し合っって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の業務日誌や個人別の介護記録は、簡潔で見やすく、連携のとりやすいものとなっており、会議や3ヶ月毎の見直しと新たな介護計画の作成に使われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院へは、ある利用者の家族が他の利用者もボランティアとして通院を支援している。地元の職員がよく知っている地元の利用者のことでもあり、他の事業体とも連携をとり、全方向の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医者が少ない山間地で、利用者が自由に選択できる余地は無いが、協力医が月2回往診している。必要な場合は、病院等への通院を支援している。医療連携シートが利用者支援に有効に利用されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り」を行う旨を重要事項説明書で明記している。重度化した場合や終末期の迎え方については入居時に意向を確認している。かかりつけ医との連携についても認識している。	○	「看取り」についての対応マニュアルの作成が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や書類等は十分な注意をもって管理されている。利用者への言葉かけや対応は心のこもったものであり、パニック状態になったときの対応も尊厳に配慮し、静かな別室で行うように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重して支援している。車イスで長時間同じような体位の場合は、適宜体位変換の声かけしながら、見守りするように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夜は外部給食会社が献立を決め食材を配達する。配膳は利用者も一緒になって行われ、食器洗いもかなり手馴れた様子である。職員の食事代は会社負担であり全員が同じ食卓についている。	○	食材や献立に関する定期的なチェック体制についての検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽は2つあり、週2回の安全な入浴支援のために、職員は時差出勤をする事もある。必要な手すりや段差解消策としてのスロープ等は管理者の手作りで、しっかりした造作である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	山深く外は自然が一杯である。冬は、雪が深く、室内にいる事が多い。この学び舎に通ったであろう人達は、今ここで、塗り絵や学習療法に勤しみ、静かに刺繍や縫い物をし、花を飾り、ゲームを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	9人の利用者が生活する建物としては適度な広さであり、運動場は市営のゲートボール場でもある。畑もプランターもたっぷりあり、車イスでの散歩にも足場はよい。新聞は、国道の近くまで、利用者が毎日取りに行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしない。居室にも鍵はない。自由な生活は、職員によって見守りされているが、念のために近所の人にも見守りや声かけを依頼している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て避難・通報訓練や消火訓練を行っている。利用者ごとに非常時の情報ファイルがまとめてあり、いつでも持ち出せる体制になっている。	○	2階の外付けの非常階段は広く頑丈な造りであるが、錆が多く、安全点検が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部給食会社の管理栄養士による献立で、食事量は体温・血圧・排便などと共に管理記録され、個人差も把握されている。夜間も必要な人にはポットが用意され、水分補給も見守りされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	旧校舎はホームには適切な大きさで、窓は大きく明るい。中学生の手作りの版画カレンダーが飾っており、室内で鈴虫が音色を震わせ、水槽で熱帯魚も飼育されている。管理者は、冬場の洗濯物干し場を検討中である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の住民であった利用者にとっては、ホームが昔からの馴染みの場所であり、気軽な入居のせいか、ベッドや整理タンスは持ち込まれているものの、やや個人の持ち物が少ないようである。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。